

バスチーユの鍵と足枷(鍵穴をかたどった左上の絵は「ペテロの鍵」)〔Die Französische Revolution〕(Casimir Katz Verlag)などから作成)

鍵穴から見たヨーロッパ

浜本 隆志

ワイマルのなだらかな草原は、干草の爽やかな香りに包まれていた。滞在していたゲストハウスの鍵を部屋に置いたまま、緑色の近郊を散策して帰ってみると、玄関の扉が閉まっている。北国の夏の遅い黄昏が、あたりの風景を呑み込もうとする頃になっても、管理人は帰って来ない。ヨーロッパで生活する際に、鍵がいかに大切であるかをつくづく思い知らされた。改めて扉の鍵穴を見れば、薔薇の花を浮彫りにした錠の装飾模様が目に留まり、これがなぜ脳裡に深く刻み込まれた。とうとう締め出されてしまったので、ゲートの園亭から程遠くない丘の干草の中で野宿することにした。浅いまどろみののち、曙光が近くの庭園に咲く薔薇の色を次第にあでやかにする様を眺めていると、宿舎の鍵穴の装飾模様とそれが二重写しになった。このようなワイマルの光景を想い出したのは、不気味な光沢を放つバスチーユの鍵を見た時である。それからヨーロッパの鍵の文化に興味を持ち、少し調べてみる気になった。

ヨーロッパは鍵の文化圏に属するといわれている。たえず異民族と接触し、いつ外敵の侵入を受けるかもわからなかった人々にとって、安全性や財産の確保は生活上の重要な課題であった。が、鍵はたんに実用的な機能のみならず、すでにギリシア・ローマ時代から権威の象徴として神格化されていた。この事実は、ヘリオス、クロノス、ヤヌスなどの神話に登場する神々と鍵との関係や、聖書の鍵の記述からも実証できよう。とりわけイエスが使徒ペテロに委譲した鍵は、やがてローマ教皇や諸侯の宗教的・政治的な支配権と結びつく。この鍵の象徴化は、中世から近世にかけてピークをなすのである。

中世ヨーロッパにおいて、戦争時に都市が降伏すると、市の門の鍵を敵に委譲せねばならなかった。鍵が都市の支配権の象徴と見なされていたからである。また封建制の時代では、領主が臣下に鍵と封土を与え、誓いによって主従関係が結ばれていた。さらに、戴冠式の際に、諸侯は皇帝に鍵を献上するセレモニーを行ったという。

ルイ十三世と同様に、ルイ十六世が鍵マニアであったことは知る人ぞ知る。ルイ十六世はみずから鍵製作を趣味にしており、鍵師がその指南役であった。今でもヴェルサイユ宮殿に王の仕事場跡が残っている。やがてフランス革命が勃発し、バスチーユに収監中の政治犯は釈放されるが、逆にルイ十六世は革命の経緯の中で投獄され、断頭台の露と消える。王は獄中でも鍵製作に熱中していたとのことである。鍵によって自由を束縛されていた王が牢獄の中で鍵を作るという光景は、歴史の皮肉というより他はない。

鍵穴からヨーロッパを眺めてみると、興味ある事実が垣間見えるが、私にとって鍵はあのワイマルの薔薇の心象風景とつねに結びついている。光を浴びた草原を背景に、庭園の薔薇が風に揺れている風景が鍵穴の向こうに広がる。その真紅の薔薇は、キリスト教の崇高な愛の象徴や、絢爛たるルイ王朝のロココ様式を連想させる反面、血生臭いギロチンのイメージとも重なる。さらにそれは、あの強制収容所跡に展示されている、ユダヤ人少女の赤い靴の色に溶け合う。人を魅了する薔薇は、棘で人を刺す矛盾を秘めている。私は鍵穴からヨーロッパ文化の光と影を見る思いがしたのであった。

(文学部教授)

今年が天候が不順である。記録的な長雨と冷夏のため米や野菜の生育が遅れ、収穫の秋は厳しいものとなっている。

「九三年ものは今一つだ」と言わなくてはならないかも知れない。海に囲まれて比較的安定した気候に住している日本人は、夏は暑いものと考えがちであるが、これは狭い視野と硬直した固定観念を示すものであろう。情性的に生きるのではなく、厳しい現実を見ることが今年の気候は教えている。(Y・U)

HEADLINE

- 3 面 派遣留学生を募集
- 4~6 面 特集 総合情報学部は こんな学部
- 7 面 人権啓発行事と公開講座
- 8 面 図書館秋季特別展に寄せて

法人人事

九月十四日開催の理事会において、高畑敬、理事の依願による常務理事の退任(九月三十日付)が決定された。

大学人事

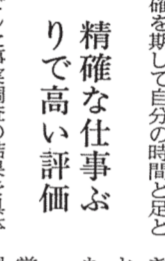
十月一日付で新設職者が次のとおり発令された。

- 文学部教授 浦西 和彦(再任)
経済学部 教授 春日 淳一
社会学部 教授 加藤 義志
法学部 教授 山田 雄二
文学部 教授 山田 雄二
文学部 教授 山田 雄二



浦西 和彦

大阪大学文学部物理学科を卒業後、大学院に進まれ、昭和四十三年本学に助手として着任された。



田中賞

三上市職工学部教授 田中賞(論文)を受賞

平成四十六年度から、学生証を新たに磁気カード化し、学内諸施設の入退の際の図書利用等(RULE)に利用し、図書利用等のカードを兼ねた、金共一丁以上の一環として実施する。学生証は、現在本学で推進している学生等の(イン)継続し所持するようになる。

三上市職工学部教授 田中賞(論文)を受賞
三上市職工学部教授 田中賞(論文)を受賞

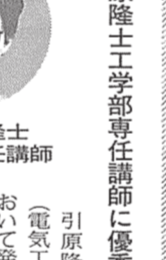
新設職者紹介
教授は、大阪生まれ大阪育ちの生粋の浪子。社会学部も経験され、学部内にもより学内外においても、真に著任された。

地方教育懇談会
十四都市で開催
関西大学・関西大学教育後援会では、本年度も全十四都市で地方教育懇談会を開催し、多数の父母の出席を得て盛況に終わった。



引原 隆士

引原 隆士 工学部専任講師
工学部専任講師 引原 隆士



引原 隆士

引原 隆士 工学部専任講師
工学部専任講師 引原 隆士

派遣留学生を募集

Table with columns: 留学先, 派遣人数, 派遣期間, 対象言語. Includes entries for George Washington University, Catholic University of Leuven, etc.

派遣留学生を募集
派遣留学生を募集

派遣留学生を募集
派遣留学生を募集

派遣留学生を募集
派遣留学生を募集

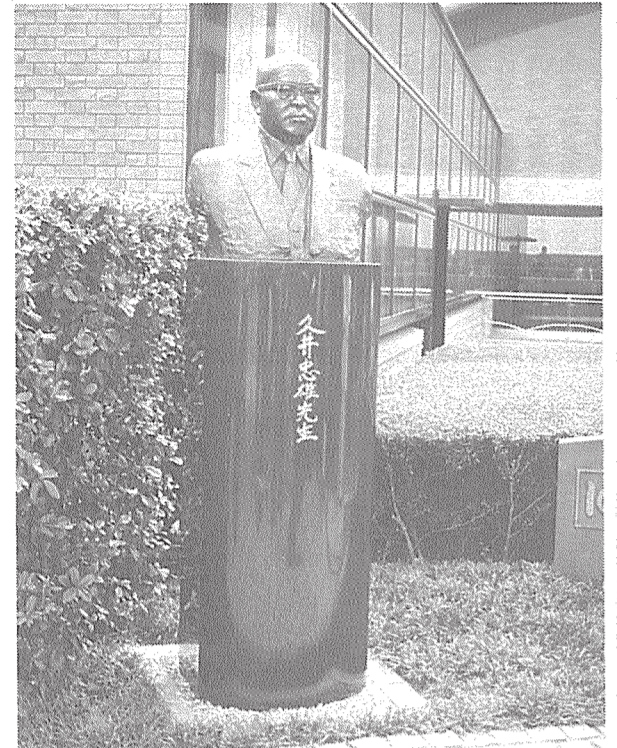
派遣留学生を募集
派遣留学生を募集

派遣留学生を募集
派遣留学生を募集

派遣留学生を募集
派遣留学生を募集

派遣留学生を募集
派遣留学生を募集

派遣留学生を募集
派遣留学生を募集



久井忠雄先生

100周年記念会館前庭に建てられた「久井忠雄先生胸像」

胸像除幕

胸像除幕
胸像除幕

胸像除幕
胸像除幕

胸像除幕
胸像除幕

胸像除幕
胸像除幕

胸像除幕
胸像除幕

胸像除幕
胸像除幕

学位取得

学位取得
学位取得

三千障害で優勝

三千障害で優勝
三千障害で優勝

学諸団体の行事

学諸団体の行事
学諸団体の行事

来学抄信

来学抄信
来学抄信

豊かさとはなにか

豊かさとはなにか
豊かさとはなにか

シンプジウムを開催

シンプジウムを開催
シンプジウムを開催

文学部

文学部
文学部

学諸団体の行事

学諸団体の行事
学諸団体の行事

Table with 2 columns: Date (11月15日, 11月16日) and Content (講演テーマ: わたしの生い立ちと部落問題, アジア的身体について(仮題), 婚姻制度のうらがわ)

秋の人権啓発行事

Table with 2 columns: Date (11月15日, 11月17日, 11月19日) and Content (講演テーマ: 生き方を問いつづけて, 同性愛差別社会はエロスを疎外する, 共に生きる社会を目指して)

Table with 2 columns: Date (10月1日, 10月8日, 10月15日) and Content (「日本文化にみる親子の関係」, 「徳島の「子守歌」を思ふ歌」, 「特色者」から「まめ人」へ)

Table with 2 columns: Date (9月30日, 10月7日, 10月14日) and Content (運動の心と精神の効果, 人間はなぜ走るのか, 余暇活動と生きがい)

Table with 2 columns: Date (10月14日, 10月21日, 10月28日) and Content (対応ということ, こむぎすに中味しらべ, 古いものに響いた)

Table with 2 columns: Date (10月1日, 10月8日, 10月15日) and Content (「徳島の「子守歌」を思ふ歌」, 「特色者」から「まめ人」へ, 「特色者」から「まめ人」へ)

Table with 2 columns: Date (9月11日, 9月18日, 9月25日) and Content (宮武外骨と「滑稽新聞」, 「大和物語」の意図的変遷, 「大和物語」の意図的変遷)

Table with 2 columns: Date (10月1日, 10月8日, 10月15日) and Content (漂流民の世界, 中世の対馬, 海へ乗りゆくひと)

平成6年度 在外研究員の紹介

Table with 4 columns: Name (職名), Surname (氏名), Period (期間), Main Purpose (主たる目的)

公開講座のお知らせ

Table with 2 columns: Date (11月15日, 11月17日, 11月19日) and Content (「心身からみた生きがい」, 「論理の世界と実用の世界」, 「海外」)

文部省の実地調査終わる

総合情報学部設置第二次申請中の案内等を行う... 文部省側委員の感想は良好で、認可へ向けて最後の高槻キャンパスで行われた...

第22回 吹田市民 大学教養講座

も盛況のうちに終了した。秋期分は、工学、保健体育、文学、歴史の4分野にわたる講座が一般公開として、九月三十日から吹田市立市民センター三階ホールで開催されている。

第33回 泊園 記念講座

が、中国研究あれこれの三を総合テーマに十月二十四日から開催される。会場は、大阪府立文化情報センター(住友中島ビル五階)共催の第33回泊園記念講座。

第4回考古学 入門講座

考古学等資料室と事務局の主催。関西大学文化芸術振興会の主催。なお、本講座は参加費として協賛による第4回考古学入門三〇〇円が必要。



井上 高木 安易な履修はできるだけ避けたいという思いで、

井上 高木 安易な履修はできるだけ避けたいという思いで、

文部省の実地調査終わる

総合情報学部設置第二次申請中の案内等を行う... 文部省側委員の感想は良好で、認可へ向けて最後の高槻キャンパスで行われた...

総合情報学部はこんな学部

三つのモデルは、既に一年次方向性のあるものを含め、選ばれるべきだ。

井上 高木 安易な履修はできるだけ避けたいという思いで、

文部省の実地調査終わる

総合情報学部設置第二次申請中の案内等を行う... 文部省側委員の感想は良好で、認可へ向けて最後の高槻キャンパスで行われた...

Table with 2 columns: Course Name (外国語科目, 基礎科目, 基礎科目, 基礎科目) and Details (Language options, credit requirements, subjects)

秋季特別展



文化14年 竹田芝居 絵尽し

竹田座本市川團吉

おんゝ

江戸時代の道頓堀では、角の芝居と中の芝居が競い合うように歌舞伎を上演していた。賑やかに華やかに世を染めさせた江戸の歌舞伎とはどのようなものだったのだろうか。写真もビデオもない時代である。形として残ることのない当時の歌舞伎を我々は想像するしかないのであるが、その際に有効な手だてとなるのが番付や絵尽し、台帳、役者評判記、浮世絵などの同時代の資料である。

今回の展覧は番付が中心であるが、番付には顔見世番付、役割番付、辻番付、絵尽しといった種類がある。顔見世番付はその年度、その座に所属する役者の顔触れを紹介するもの。役割番付は上演月日や上演場所、演目、出演する役者、及びその役割などを記したものである。辻番付は、現代で言うところのポスターに当たるもので、人の集まる場所に張り出したり、配ったりした。絵尽しは芝居の筋書きを配役とともに絵本に仕立て紹介したものである。

当時の人々は、それらの番付を見て何となく芝居がどの座で上演されるのか、自分の鼻の役者がどの座に出演するのか、また、どんな役者の顔合わせがあるのかなどを知り、わくわくとした期待を持

「大阪芝居番付」によせて

一番付の効用

非常勤講師 神楽岡幼子



あれこれ思いめぐらしたところであらう。

また役割番付を見ると「名古屋山三」の役を角の芝居で二代目嵐吉三郎が、中の芝居では三代目中村歌右衛門が演じている。人気役者の二人がそれぞれどんな「名古屋

山三」を演じるか興味を引いたことである。「葛城の役は、中村富三郎が演じた角の芝居では「山三女房」とあり、中山よしをの演じた中の芝居では「傾城」とあって、それぞれの役者の持ち味に合った設定がなされたことが窺える。詳しく述べる余地はないが、このように番付は様々な興味深い情報を有しているのである。

関大図書館には特に上方の番付類が多く所蔵されており、昭和三十五年には「大阪芝居番付目録」(大阪関係資料目録「所収」として紹介されているが、それから三十余年が経ち、今年新たに「芝居番付目録」として、その後に取り扱った番付も含めて、関大図書館所蔵の番付の全体が紹介されることになった。歌舞伎研究の基礎資料である番付が、この目録により簡単に検索できるようになったことは、歌舞伎の研究者にとっても非常に有り難いことである。

最近の研究では番付には異版や改版も少なくないことが知られており、一点一点の番付の持つ情報が検討されなければならない。そのためには番付の所蔵が明らかにされること望まれており、今後、関大図書館所蔵のこれらの資料も生かされて、歌舞伎研究も進んでいくことであらう。

◆平成五年度秋季特別展

「大阪芝居番付」
 会期 十月十二日(火)
 ～十一月二十日(土)
 (日曜・祝日・十一月四日を除く午前九時～午後五時)
 会場 総合図書館 一階展示室

BOOK 新刊紹介

法学部教授 眞鍋俊二著
 『現代日本論入門』
 カオスとコスモス
 (関西大学出版部 二〇〇〇円)

名譽教授 谷沢永一
 法学部助教授 山野博史 著
 大阪大学教授 加地伸行
 『三酔人書国悠遊』
 (潮出版社 一八〇〇円)

題して『三酔人書国悠遊』
 タイトルの三酔人から、東洋のルソー、中江兆民の『三酔人経綸問答』を想起する人なら、本好きにちがいない。

兆民のこの書は、理想論を唱える洋学紳士、和服の国権論者豪傑君、現実主義を説く南海先生、三酔人が、近代日本の行く末を憂い論ずる「再結合」のプロセスの特徴が繰り返して指摘されている。

周知のように浜口恵俊は、F・シュエを参考に、人との間を重視する「人間主義」を日本文化の特徴とし、欧米の分節的な「個人主義」に對比させた。集団の形成やタテマエとホンネの使い分け、また本書の数ヶ所で論じられる男女の個人的関係の法的届け出制度(結婚や家族など、「関係性」の慣習や制度のあり方は、いつの時代でもある文化の特徴を鋭く反映させる部分であらう。異質性との出会いが日常となり価値観が多様化するなか、対話を展開させる刺激に富む本である。

(杉谷眞佐子)

経済学部教授 若森孝著
 『資本主義発展の政治経済学』
 接合理論からレギュレーション理論へ
 (関西大学出版部 七四〇〇円)

今日のが国の流通経済も大きく変貌を遂げつつあるが、これを表現するキー・ワードの一つとして、流通における国際化の進展というものをあげることができる。本書は、流通経済の国際化が展開する状況下で、この種の変化を主導する大資本の流通行動のなかから、国家の維持・獲得を目指して、マーケティング戦略の新たな展開を図らねばならない。その際にキーとなるのが「カウンター・セグメンテーション戦略」とソフトブレイクである。

その内容については本書を「読む」(関西大学出版部)が六月二十三日付で、また、福井七子文学部助教授、上田晋志文学部助教授共訳、マーガレット・M・カフラー著「さまよえる人 ルース ベネディクト」が七月十四日付で、それぞれ社団法人日本図書館協会の「選定図

の構造」の著者、土居健郎を「無粋な賢人」と称し、塩野七生を「ヨーロッパバザール派に見えて、明らかなシヨナリス」と看破する。

読書の達人に次作を期待するのは私一人ではあるまい。

(河田博一)

商学部教授 保田芳昭著
 『国際化時代の流通政策』
 (ミネルヴァ書房 三三〇〇円)

商学部助教授 陶山計介著
 『マーケティング戦略と需給適合』
 (中央経済社 四〇〇〇円)



今月の表紙

浜本 隆志(はまもと たかし)教授 ビューヒナーを専門に、カフカや演劇史、フォルクスタ、ドイツ文化論などの研究にも関心を示されている。最近では、ドイツ・ジャコブソンの研究を行い、その成果を出版された。



編集後記

本書は、序章、第一部(第一章、第二章、第三章、第四章、第五章)、第二部(第六章、第七章、第八章、第九章、第十章)から構成されている。序章で示されている流通経済の民主的転換の課題についての保田氏の基本的な考え方・視座にそって、また第一章のはじめに提示されている氏独自の流通政策の捉え方にしたがって、第一部のその後の記述では国内流通政策について、第二部の諸章では最近の国際流通政策について中心的に論じられている。また、補章ではイギリスの小売流通事情の一面がえぐりだ

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

司馬遼太郎を「大阪が生んだ人間智」と評し、日下公人が「世相密着型のやわらか頭」の持ち主とする谷沢永一氏。また山野博史氏は「甘い

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

◆平成五年度秋季特別展
 「大阪芝居番付」
 会期 十月十二日(火)
 ～十一月二十日(土)
 (日曜・祝日・十一月四日を除く午前九時～午後五時)
 会場 総合図書館 一階展示室

出版部刊行の4冊

植松健郎教授訳
 オスカー・マリアー・
 グラフ著
 『ぼくらは囚人だ』

伴 義孝教授他著
 『スポーツの人 大島謙吉』

中山喜代市教授他訳
 ルイス・オウエンズ著
 『怒りのぶどう』を読む』

福井七子助教授 共訳
 上田晋志美教授
 マーガレット・M・カフラー著
 『さまよえる人 ルース ベネディクト』

植松健郎文学部助教授、オスカー・マリアー・グラフ著『ぼくらは囚人だ』(関西大学出版部)が六月二十三日付で、伴義孝文学部助教授共訳、マーガレット・M・カフラー著『さまよえる人 ルース ベネディクト』(関西大学出版部)が七月十四日付で、それぞれ社団法人日本図書館協会の「選定図

ス・オウエンズ著『怒りのぶどう』(関西大学出版部)が六月二十三日付で、また、福井七子文学部助教授、上田晋志文学部助教授共訳、マーガレット・M・カフラー著『さまよえる人 ルース ベネディクト』(関西大学出版部)が七月十四日付で、それぞれ社団法人日本図書館協会の「選定図

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態

その内容は、『資本論』第三部と晩年のマルクスの所論と従属理論からレギュレーション理論までの最新の理論と検討を通過して、原理論と資本主義の世界化の過程での資本主義の自体的多様化や変化という歴史的な事実とを媒介する新しいタイプの発展論を構想しようとしたものである。

そこには、「資本論」の理論から演繹的に現代資本主義論を展開しようとする既存の発展論への新鮮な問題提起が認められる。また、例えば物象化論を資本主義発展の動態